

子どもが主役の社会をつくる

－地域学校協働活動の考え方－

牧野 篤

(東京大学大学院教育学研究科)

1. いい社会なのに活かさない

巷に溢れる「高齢社会悲観論」

少子高齢人口減少社会は問題なのか？

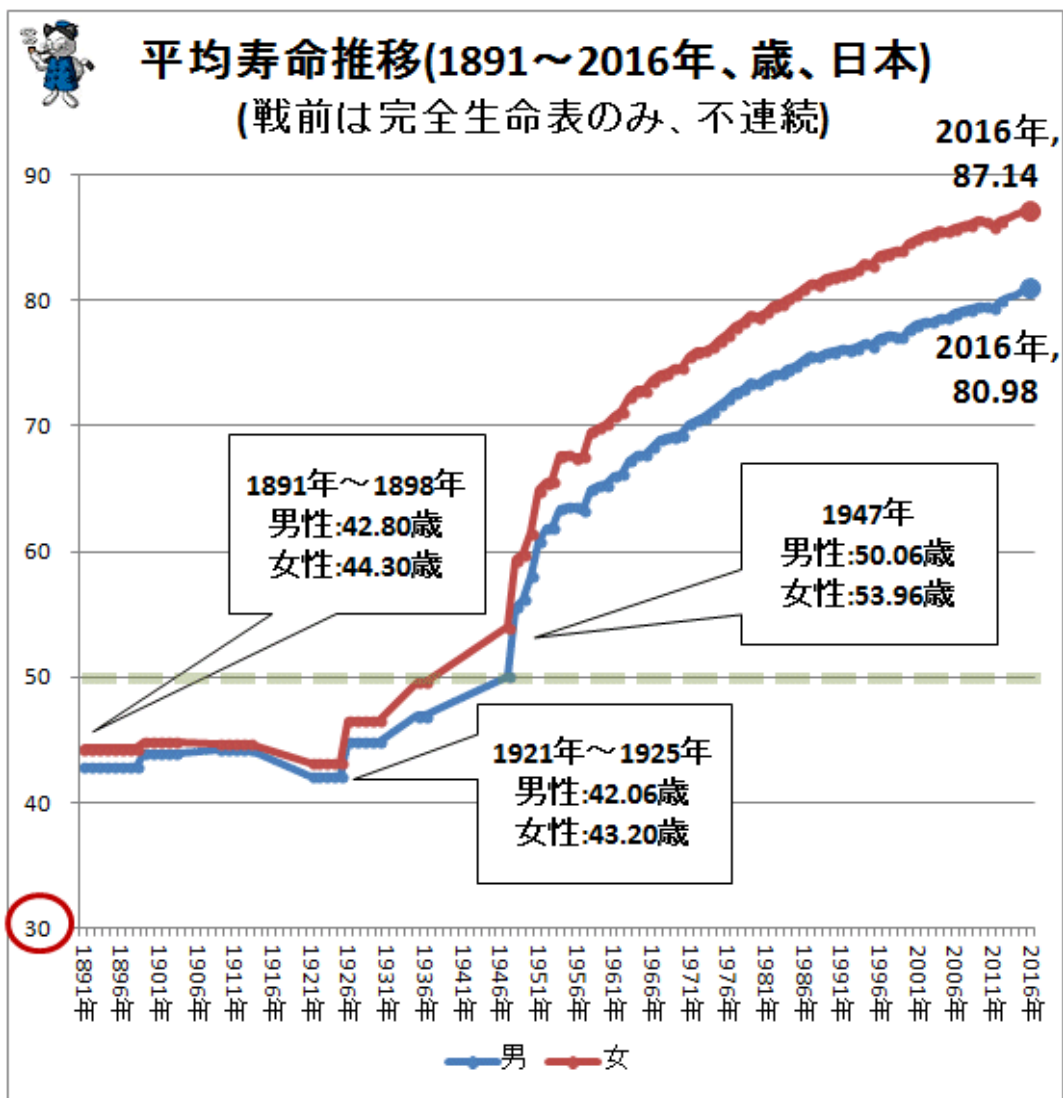
「高齢社会」とはどのような社会なのか

「少子化社会」とはどのような社会なのか

「人口減少社会」とはどのような社会なのか

日本人の平均寿命 (1891年～2016年)

100年前の2倍



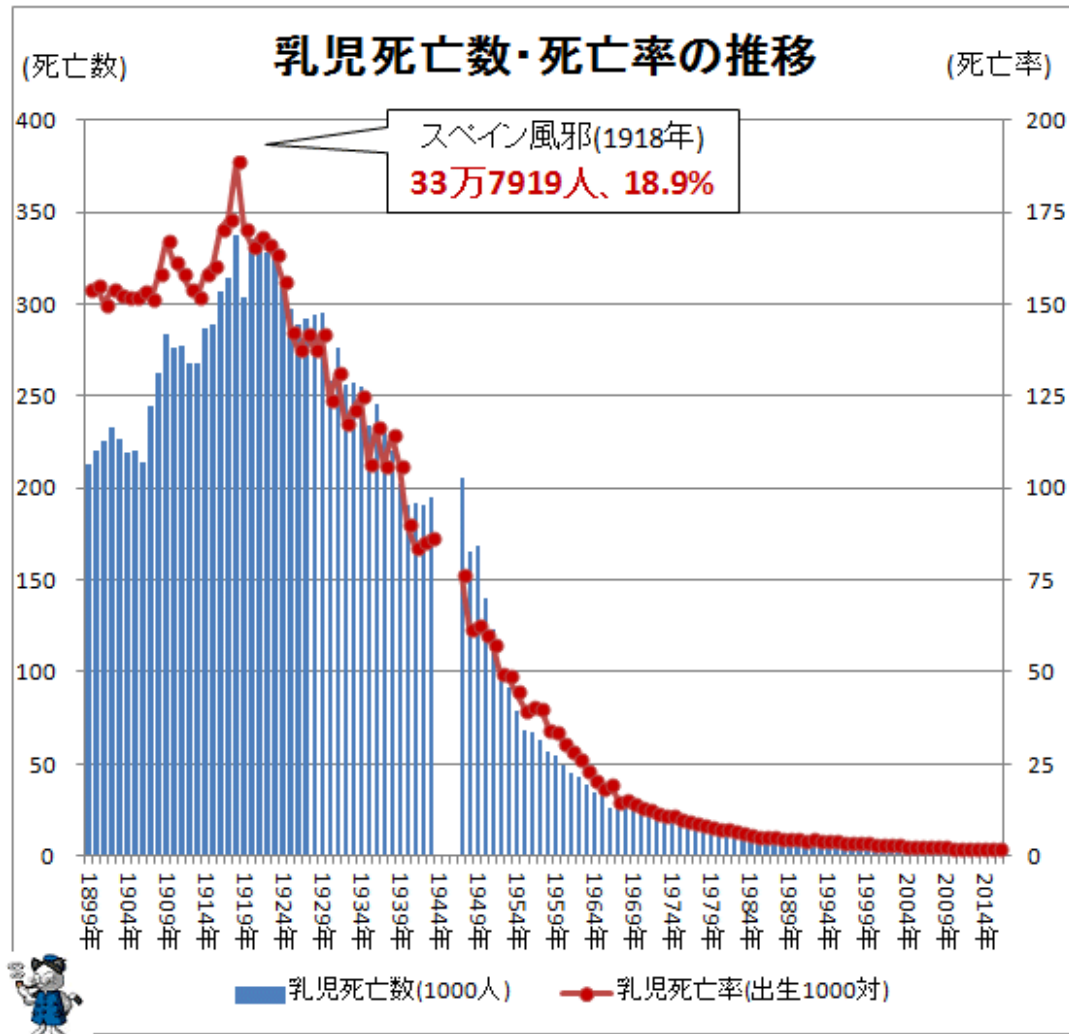
1000人あたり 乳児死亡率の変化 (1899年～2014年)

パーセントにすると
最高18.9%

⇒最低0.19%

100年前の100分の1

日本は世界で
一番乳児死亡率が低い



<http://www.garbagenews.net/archives/1890642.html>

**生まれたら誰もが大きくなれ、
長生きできる社会**

結果としての人口減少

いい社会なのでは？

2. 新しい学習観へ

－学校だけで完結しない教育課程－

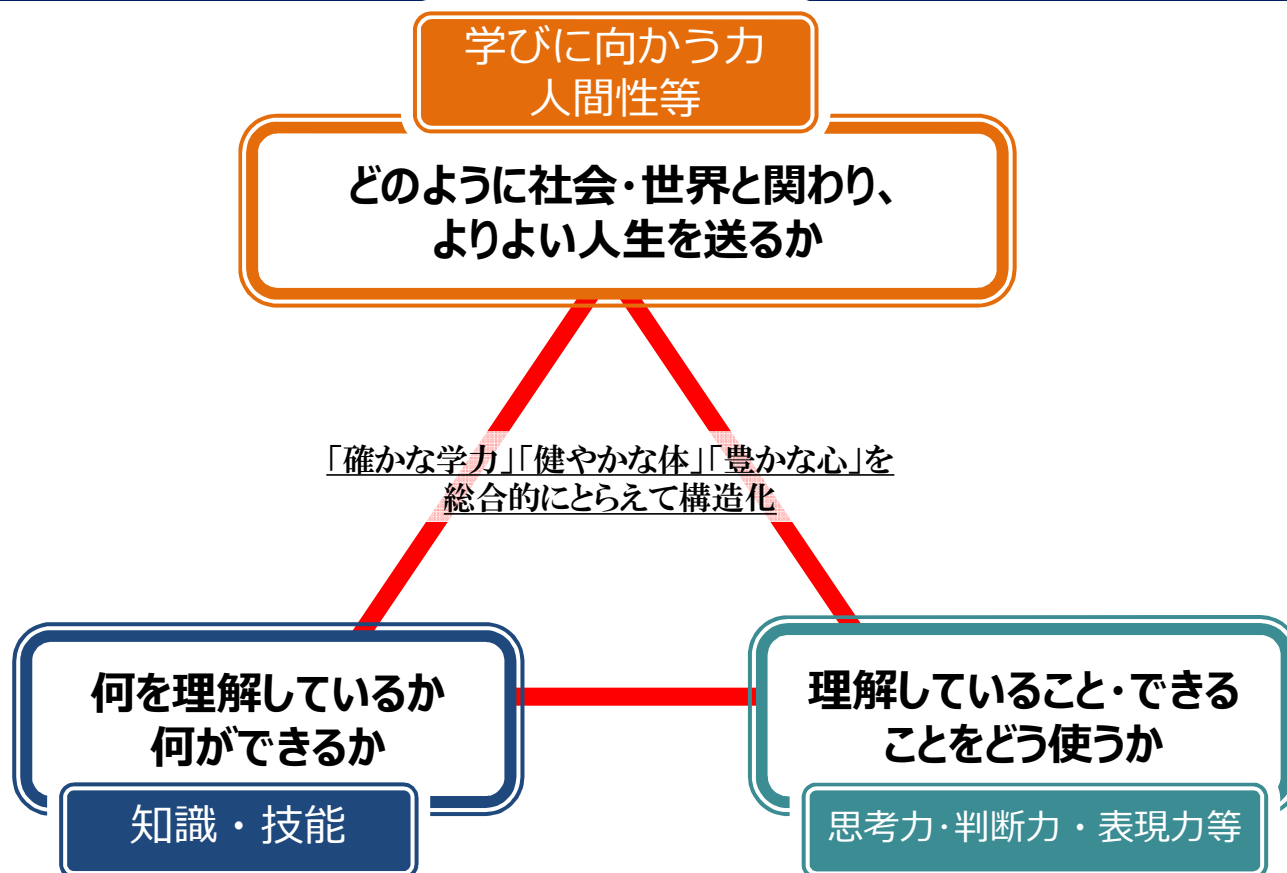
中教審教育課程企画特別部会(2015年8月)

社会に開かれた教育課程

→教育課程は学校の中だけで完結しない

**地域コミュニティとの連携・協働によって
様々な社会体験を子どもにさせる**

育成を目指す資質・能力の三つの柱（案）



しかも・・・・・・・・、

学校は「教育」機関たり得ているか

学校は「福祉」機関化していないか

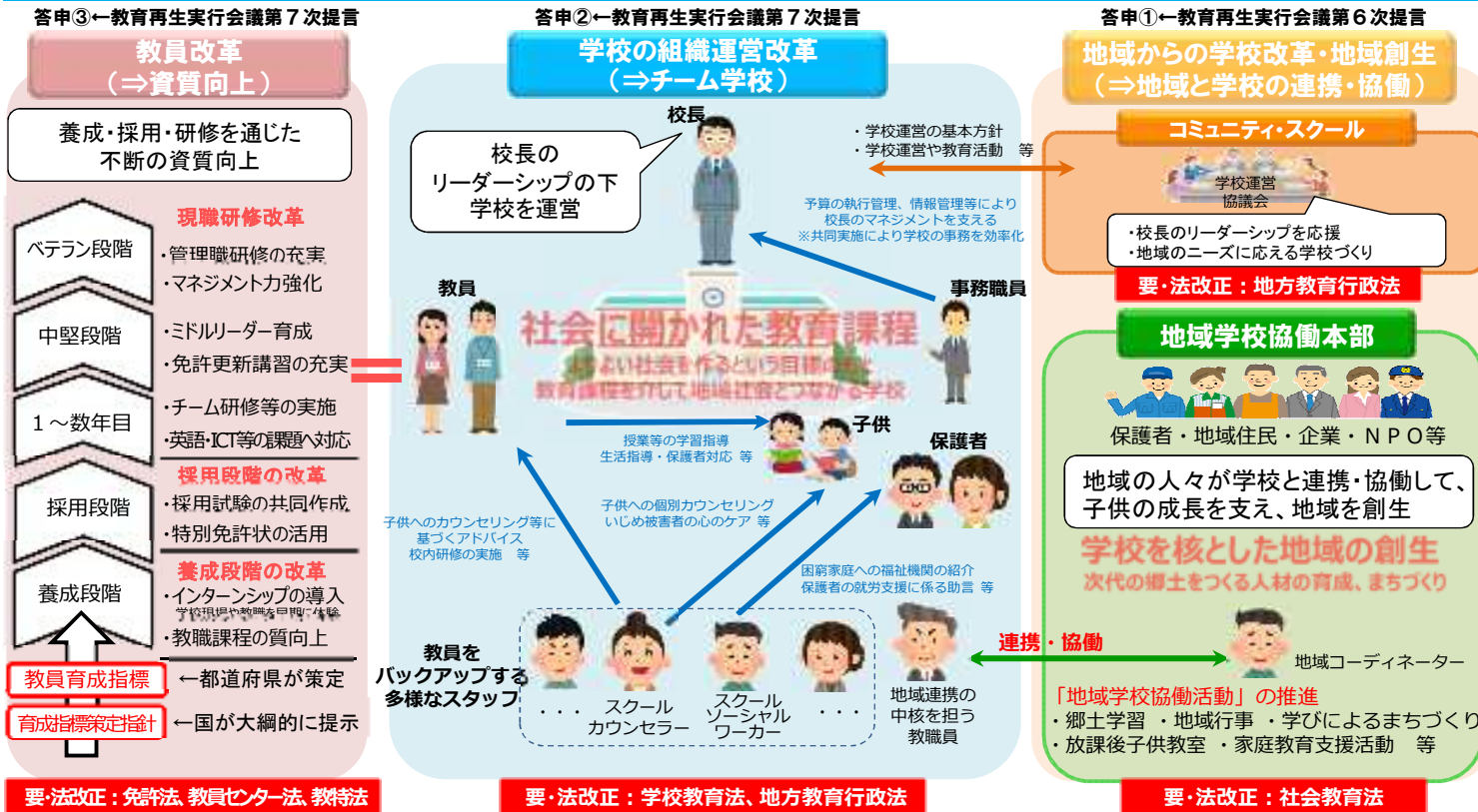
→学校を再び「希望」を語れる場所に

**子どもの成長を軸に
学校を核として
地域総がかりで**

「次世代の学校・地域」創生プラン

～中教審3答申の実現に向けて～

平成28年1月25日
文部科学大臣決定



「次世代の学校」の創生に必要な不可欠な教職員定数の戦略的充実

子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「地方創生」の実現

3. 背景となる能力観

21世紀型スキル

(アメリカの)小学校入学生の65パーセントは、
大学卒業後、今ない仕事に就いている。
(アメリカ・デューク大学キャシー・デビッドソン)

現在の仕事は、2030年に50パーセント
が自動化され、消える。
(オックスフォード大学)

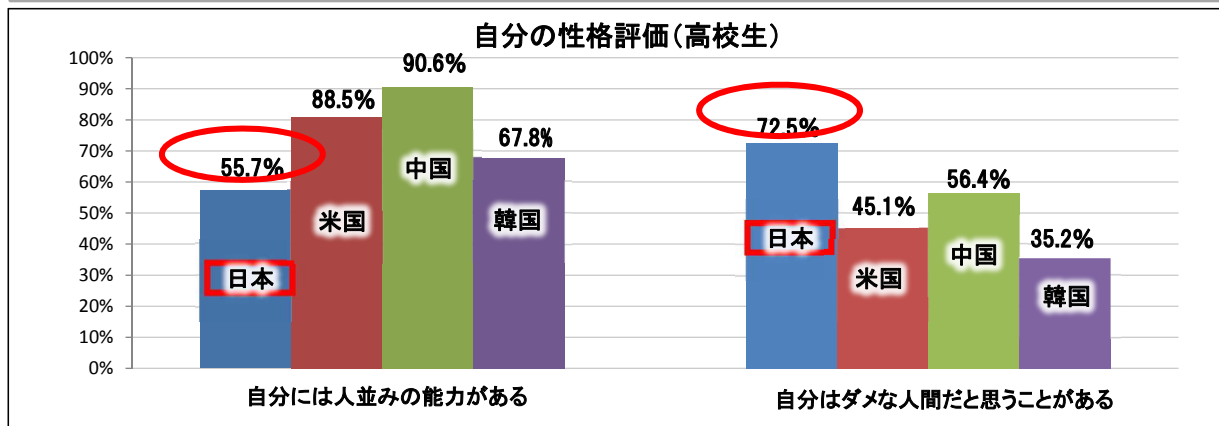
だから、すべての子どもたちに、
豊かな「学び」の機会を保障すべき

- ・ 思考の方法—創造性、批判的思考、問題解決、意志決定と学習
- ・ 仕事の方法—コミュニケーションと協働
- ・ 仕事の道具—情報通信技術（ICT）と情報リテラシー
- ・ 世界で暮らすための技能—市民性、生活と職業、個人的および社会的責任

(ATCS21 : The assessment and teaching of 21st-century)

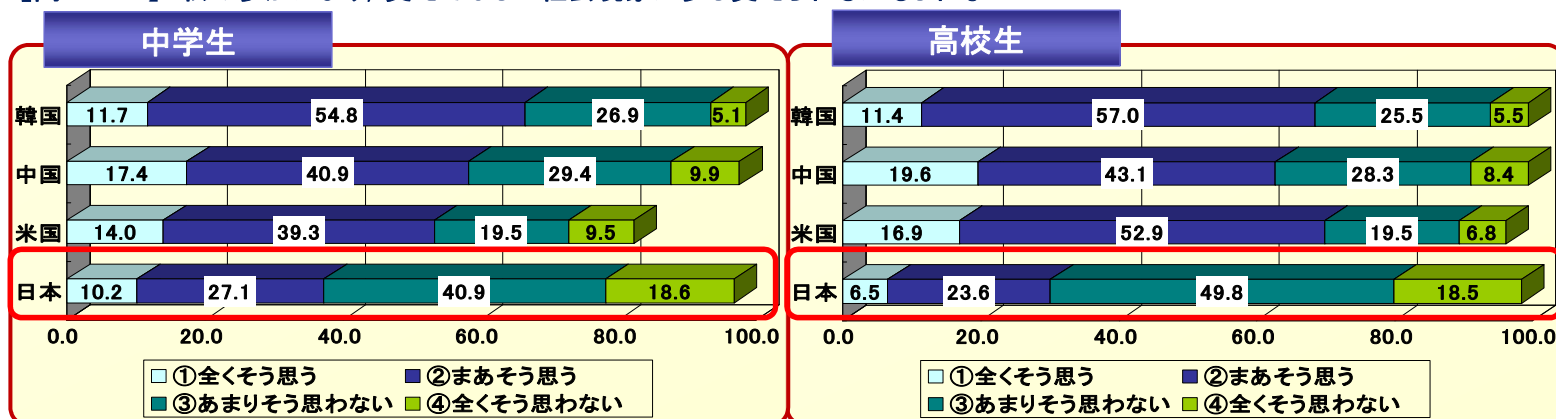
生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識

◆米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分には人並みの能力がある」という自尊心を持っている割合が低く、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。



(出典)
 (財) 国立青少年教育振興機構
 「高校生の生活と意識に関する調査報告書」(2015年8月)より
 文部科学省作成

【問33-2】私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない



(出典) (財)一ツ橋文芸教育振興協会, (財)日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 -日本・アメリカ・中国・韓国の比較- (2009年2月)」より文部科学省作成 22

4. 新しい学習指導要領の学力観

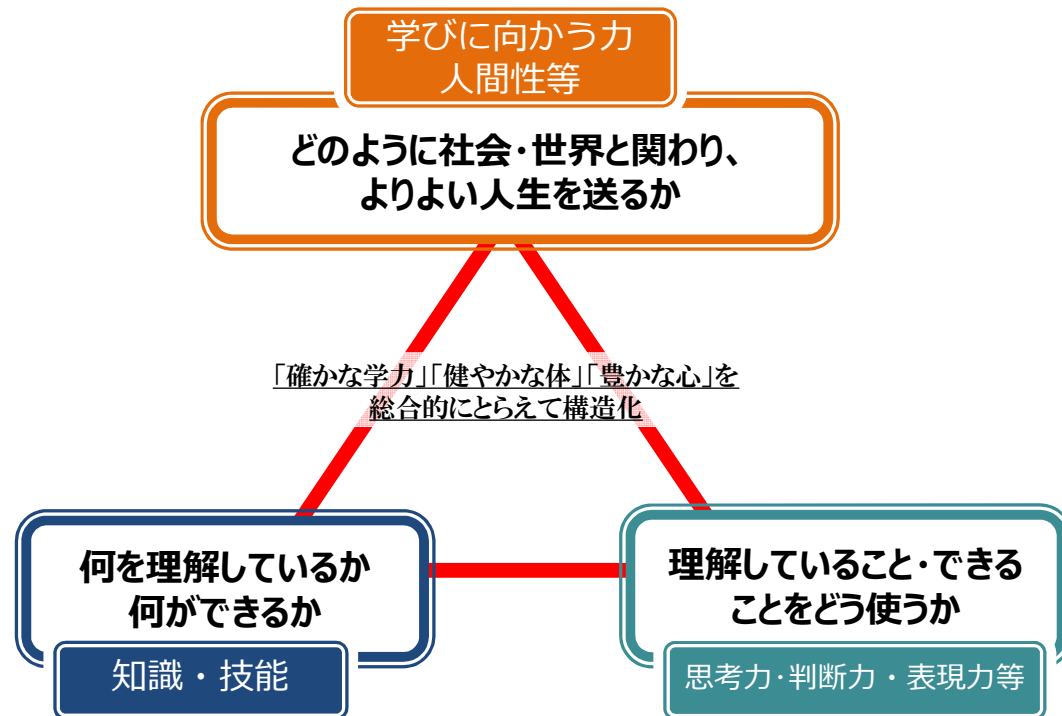
確かな学力

健やかな身体

豊かな心

他者ととともに
「一緒に生きる力」

育成を目指す資質・能力の三つの柱（案）



新学習指導要領のキーワード

1. 教科間・学校段階間の統合
2. 質も量も
3. 「主体的で、対話的な、深い学び」
4. 学習評価の改革
5. 多元性・多様性・寛容・受容(特別支援・外国籍)
6. 社会に開かれた教育課程

他者と一緒に「学び」をつくる・知識を探求・価値をつくる

- 1. アクティブ・ラーニング
2. 地域学校協働
3. チーム学校
- } コミュニティ・スクール

5. コミュニティ・スクールが基本に

- * 主体的で、対話的な、深い学び(アクティブ・ラーニング)が
学力向上の有利に働く**
- * 根拠や理由を示して、論理的に自分の考えを述べるのが苦手**
- * 自己肯定感・社会参加意欲が低い**



- * アクティブ・ラーニング（教師養成のあり方・学びのあり方）**
 - * 言語活動の論理性重視（プログラミング・対話型学習）**
 - * 社会参加と社会体験（地域学校協働）（多様性・寛容）**
- = 社会に開かれた教育課程**
コミュニティ・スクール（「次世代の学校・地域創生」プラン）

法制度の改革：

教職免許法 = 教員養成のあり方をアクティブ・ラーニング対応に

学校教育法 = チーム学校対応・地域学校協働推進員の設置

社会教育法 = 地域学校共同推進員の設置など

子どもの成長を軸に、

学校を核として、

地域の人々が総出で子どもにかかわることで

多様な社会体験を保障し、

学校での言語活動を中心とした学習を推進し、

「確かな学力」「健やかな身体」「豊かな心」

を持った次世代を育成する

アクティブ・ラーニングが学び方のベースになる

6. 何が問題なのか？

—改革の社会的背景—

価値観の大きな転換

= 「帰属」

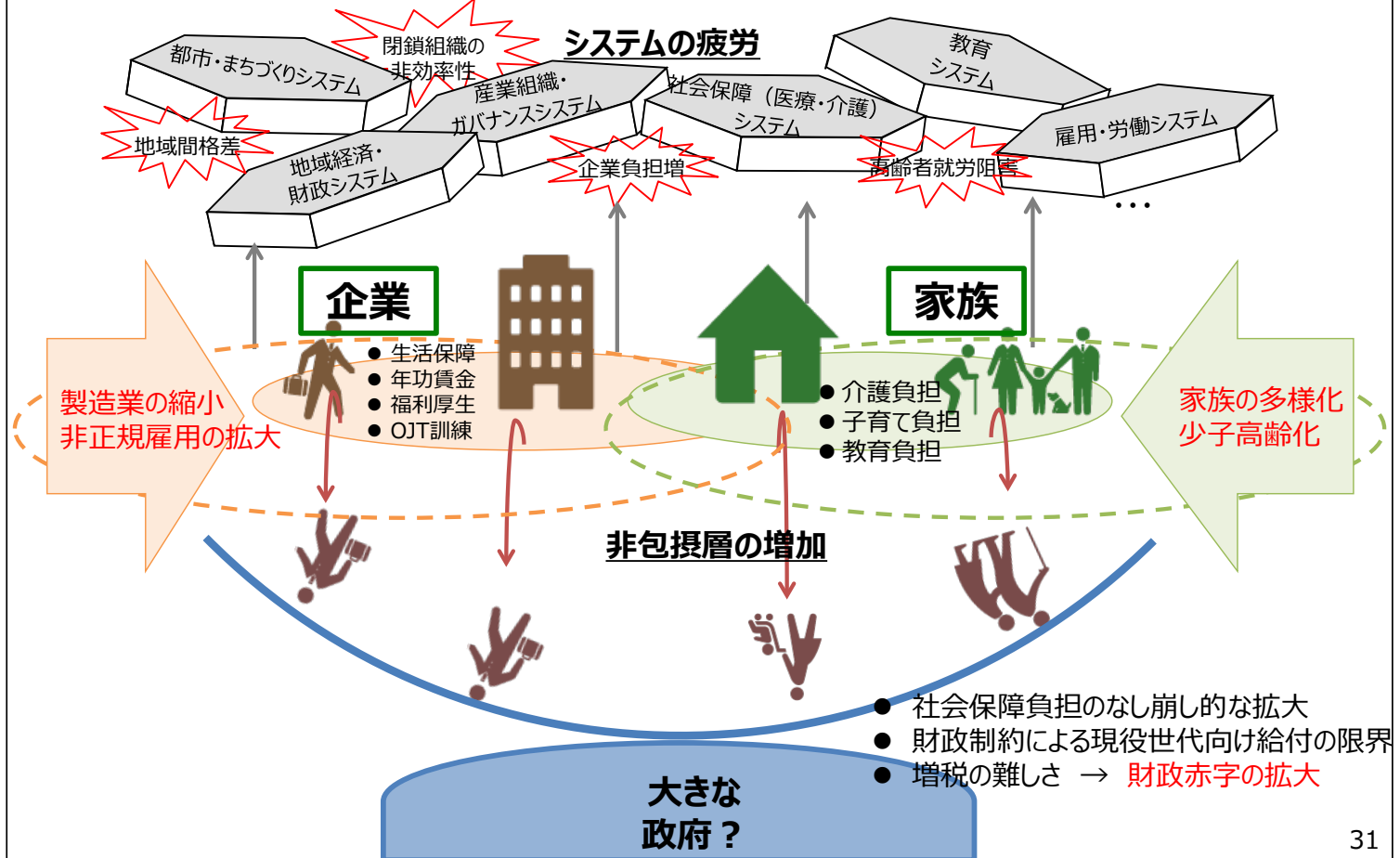
= 同心円状に拡大して、同値する自己と国家

みな、同じ、国民

家族—会社—国 が直列となる

家族と会社が社会保障だった時代の終焉

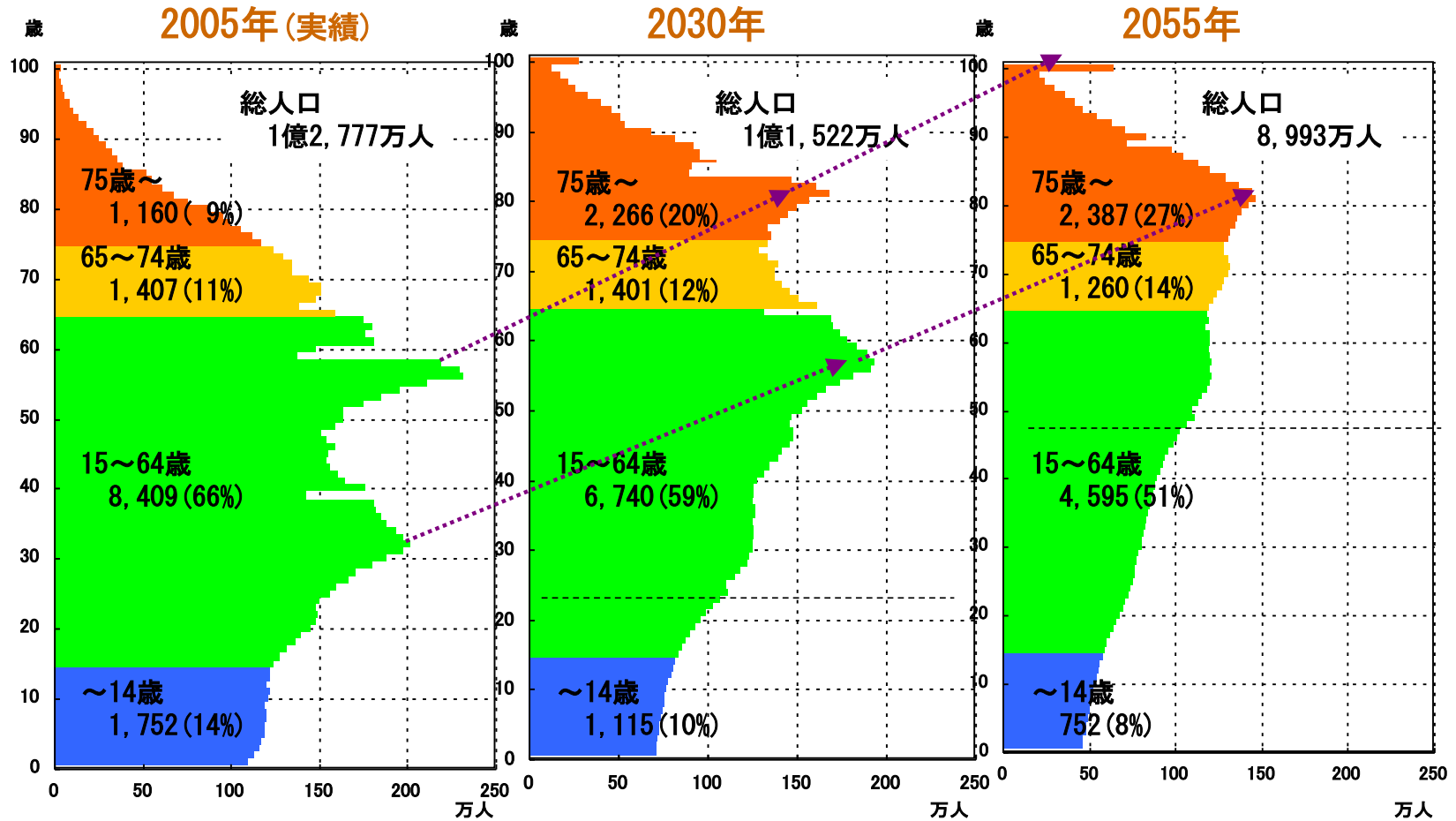
⑤ 戦後モデルの揺らぎ（企業と家族のセーフティーネット機能の低下）



少子高齢化・人口減少の急激な進展

高齢者人口の高齢化

—平成18年中位推計—



注：2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

しかも・・・、

学校は「教育」機関たり得ているか

学校は「福祉」機関化していないか

学校は2030年まで持たないのではないか

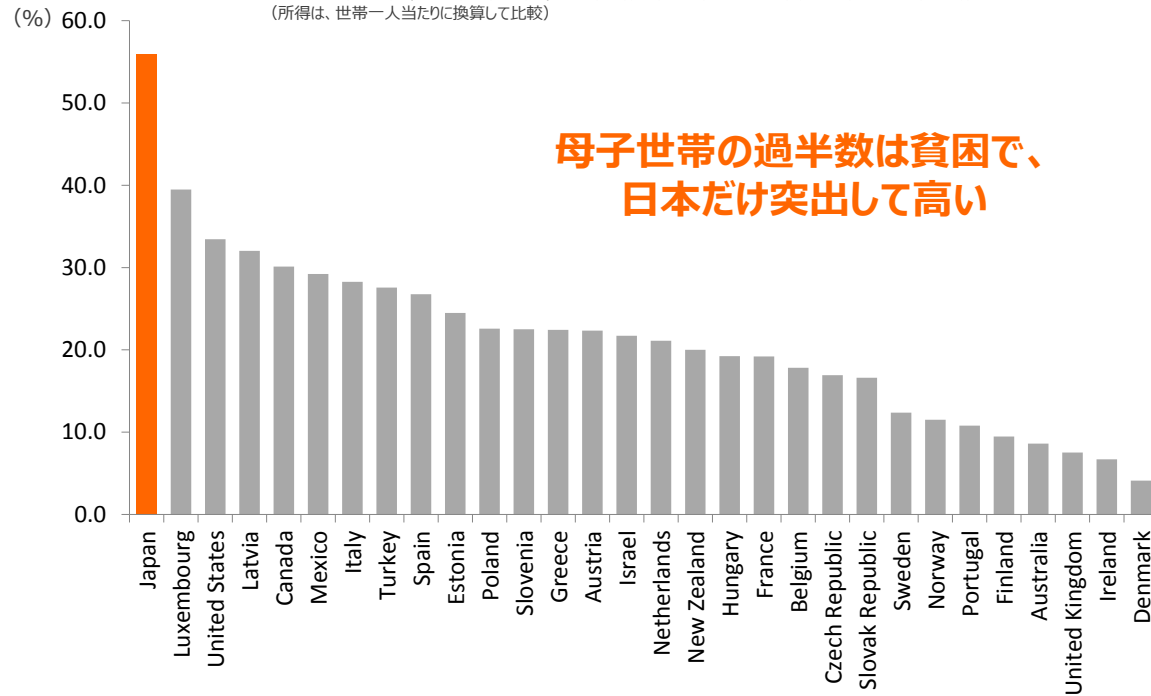
→学校を再び「希望」を語れる場所に

子どもの貧困

日本の母子世帯の貧困率は世界でも突出して高い

OECD各国の一人親・子持ち就業者世帯の貧困率※

※一人親・子持ちの就業者世帯の中で、就業者世帯全体の平均所得の50%未満の水準にある世帯数の割合
(所得は、世帯一人当たり換算して比較)



(出典) OECD Family Databaseより経済産業省作成 27

子どもの
相対的貧困率：17%
ひとり親家庭：57%

「子ども食堂」
400カ所

人々が孤立し、「社会」が解体する時代へ

新たな〈社会〉の時代を構想する必要

= 新しい「公共」→自治の新しい形
→ 住民が〈社会〉を創造する

7. 何が問われているのか

拡大再生産ではなく

**定常的×多元的な
楽しい〈社会〉を**

「自治」が問われる

行政=自治体依存なのか
住民の自立なのか

相互依存と扶助にもとづく
コミュニティ機能の好循環化

コミュニティで楽しい生活

楽しい=自治的=「社会」的
=〈社会〉をつくる

競争から協働へ

一元化・画一性から多元化・多様性へ

固定した価値から価値の不断の生成・変化へ

**リーダーが牽引する社会から
すべての人がフルメンバーの社会へ**

コミュニティを「信用」で覆う

「確かな安心」に満たされた 地域コミュニティの形成

学校を核にして、人々が「学び」を組織し、
子どもたちのために一生懸命になるコミュニティ

子どもたちがコミュニティで「カッコイイ」おとなと交流し、
自分の人生を設計できるコミュニティ

高齢者・子どもを含めてすべての人々が
社会のフルメンバーとして活躍できるコミュニティ

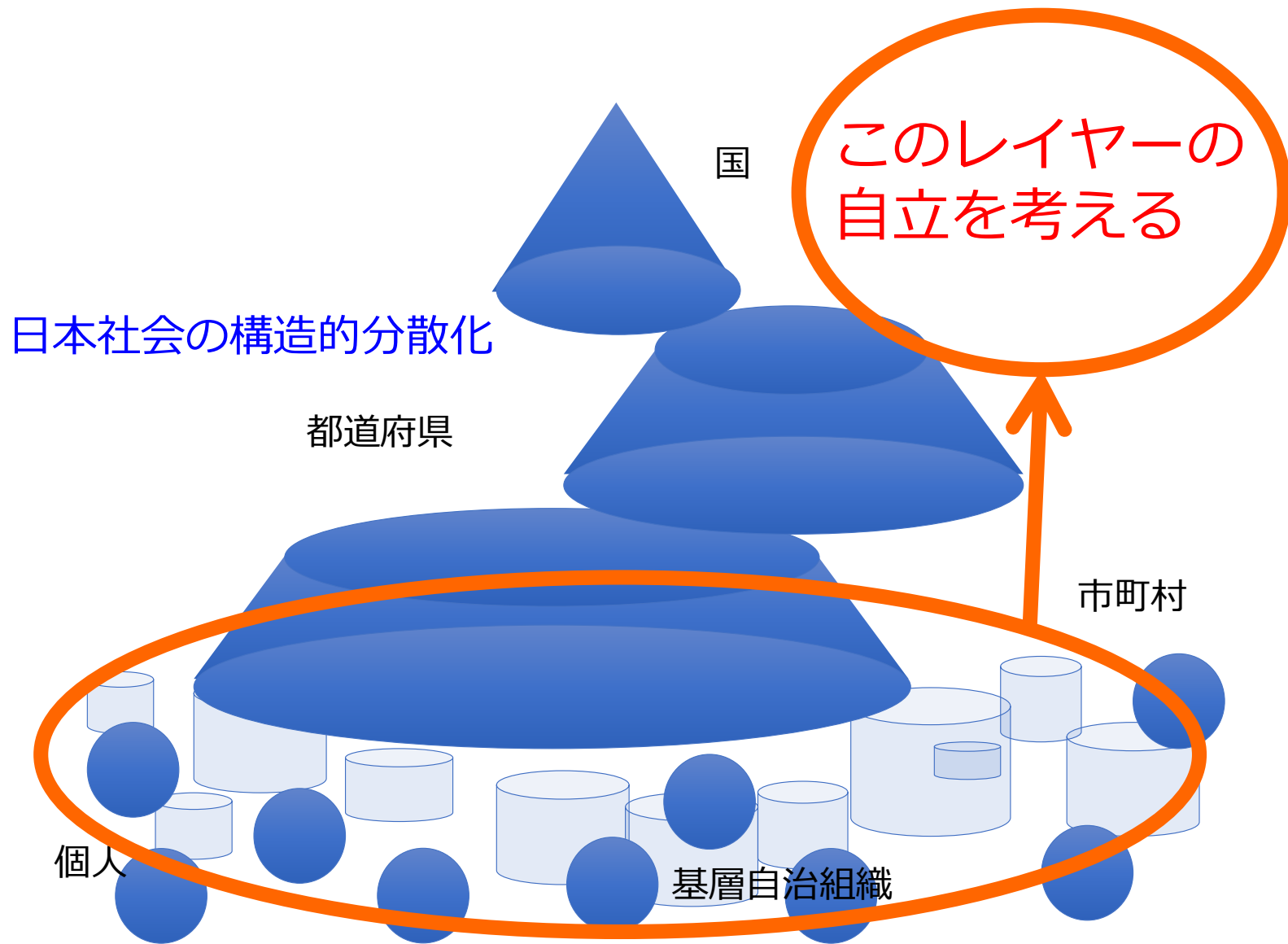
地域住民が自ら経営するコミュニティ

これからの「社会」の
大きなテーマ

ソーシャル:The Social (社会的であること)

地域コミュニティのあり方も
The Socialとなる必要
価値的に豊かになる

〈社会〉をつくる「学び」とは



「学び」とは何か

知識や文化教養を得ること



自ら〈社会〉をつくり、経営する営み

他者と共に〈社会〉を治める営み

**〈社会〉とは他者との関係によって
構成される 〈小さな社会〉**



「自治」が問われる

豊穰性の時代へ

個人の人格的形成→家族
→地域社会・会社→国家

帰属の時代 = 価値の画一性の時代の終焉

高齢社会 = 多様な価値観の時代
= 豊穰性の時代へ

若者の流出 = 「文化」の問題

8. 住民が〈社会〉をつくること

(1) . 多世代交流型のまちづくり

施設に入らず一生安心

綺麗に老いる

いつまでたっても好奇心を持って

ボランティアは新しいシニア世代のた
しなみ

多世代共生・交流型コミュニティの創造

シニアがまちの宝になる

→ 「安心」 「安全」

→ 「つながり」 「いきがい」 「尊厳」
「健康」

→ 「互いに認め合う」まち



**子どもとの交流が活発化
学校行事を請け負う**

**子育てに優しい地域との評判
子育て世代が転入
学校が学級増へ**

**高齢者の「終の住処」としての
コミュニティづくりへ
不動産の循環プロジェクト**

楽しくて仕方がない

(2) . 過疎・高齡中山間村の活性化事業



仕事を分け合う・負担を分け合う

生活を支えあう・収入を分け合う

地域全体をグループホームに

エネルギーの自立圏へ

中山間地が日本の最先端地域へ

**生きかた、暮らしかたを問いかけながら、
ライフステージに合わせて変化していく**

暮らしごと

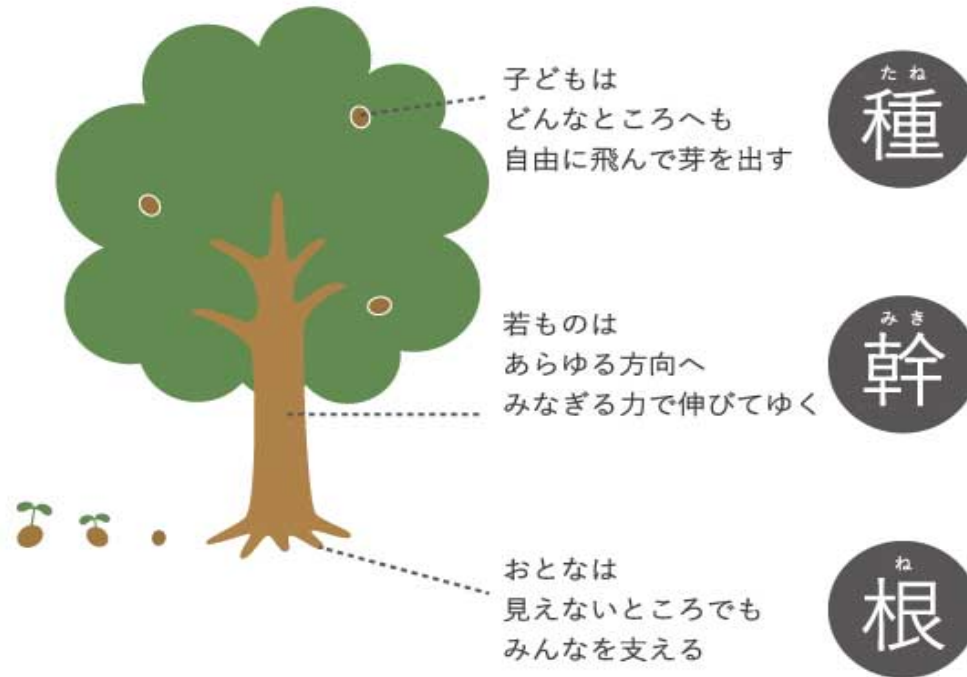
(3) . 12年一貫ふるさとキャリア教育

富良野緑峰高校
小中高校一貫
「ふるさとに心が向く
キャリア教育」

未来づくり会議
↓
ふらのみらいらぼ



ふらのまちづくりみらいらぼ



9. 「学び」：市民の新しい役割

(1) . コミュニティを「信用」で覆う

「確かな安心」に満たされた
地域コミュニティの形成

学校を核にして、人々が「学び」を組織し、
子どもたちのために一生懸命になるコミュニティ

子どもたちがコミュニティで「カッコイイ」おとなと交流し、
自分の人生を設計できるコミュニティ

高齢者・子どもを含めてすべての人々が
社会のフルメンバーとして活躍できるコミュニティ

地域住民が自ら経営するコミュニティ

(2) . 社会関係資本を考える

地域の社会関係資本(人と人とのつながり)
が豊かなコミュニティの形成

子どもの学力 = 高い

財政負担 = 低い

生活満足度 = 高い

健康寿命 = 長い

安心度 = 高い

市場の形成度 = 高い

よい教育をする学校・地域に人が集まる

「よい教育」とは21世紀型スキル

新たな産業をつくる子どもたちの基礎の形成へ

(3) . 新しい経済をつくる

カネ・モノから
ではなくて
「つながり」から

「つながり」ができると
動き出す
「まわりだす」

「まわりだす」と
必要が生まれ
社会を「つくりだす」ことへとつながる

(4) . 「学び」の専門職

専門知の分配と指導・助言



* 地域住民と共に生活し、
彼らの言葉にならない感情や思い、
日常生活上の課題、
希望を言語化し、可視化して、
住民に還し、「学び」を組織化できる人材

(5) . 社会保障としての「学び」

住民が「社会」をつくることは社会保障

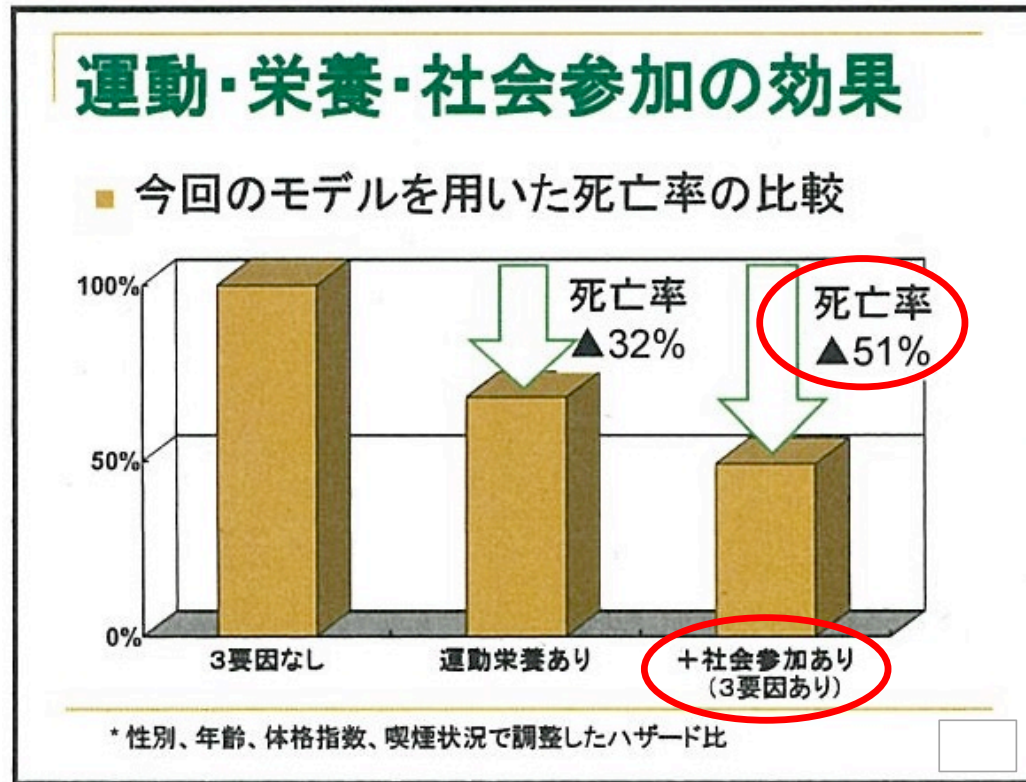
誰もが自分の人生をイメージできる
誰もがこの社会の主人公だと思える
誰もがこの社会とともに生きていると思える

住民が子どもにかかわることは
人生前半の社会保障
そして、高齢者自身にとっての
人生後半の社会保障

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

(6) . つながりをつくる

つながり

緊密なつながり

緩いつながり

関心を持ちあう

社会に対する信頼感

自立=いざというとき

頼り頼られる関係がある

依存してもよいと思える

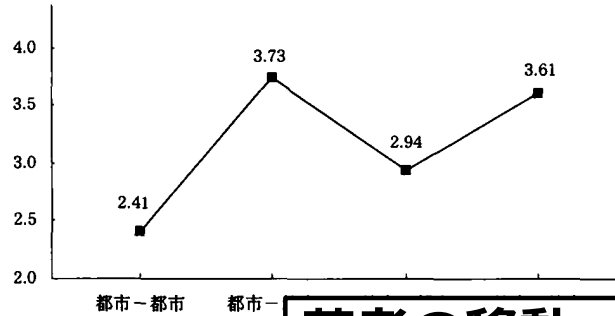
社会にとって
こちらが重要

(7) . 若者が帰ってくる

帰ってもよいと思えること
自分を迎え入れてくれる関係があること
関心を持たれていると思えること

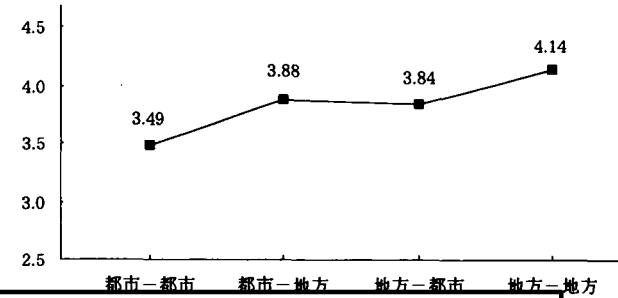
定住人口
交流人口
と
関心人口

図12 居住環境得点と移動類型



註) 居住環境得点は (a) 交通の
(b) 自然環境がよく落ち着いた
5段階評定より、1点から
5点まで、bが重視されていることを

図13 地域参加態度得点と移動類型



力があつた
を、1点

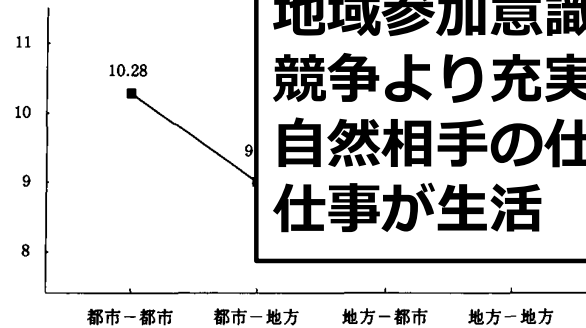
若者の移動・コミュニティへの定着

利便性より自然環境
地域参加意識
競争より充実
自然相手の仕事
仕事が生活



受け入れられること
文化的なもの
地域社会重視

図14 アスピレーション



註) アスピレーション得点は「高い地位につくこと」「高い収入を得ること」「他人との競争に勝つこと」の3項目のそれぞれが、自分にとってどの程度重要であるかという5段階評定から、1点から5点に得点化したものの合計である(3点~15点)。得点が高いほどアスピレーションが高いことを意味している。

10. 「学び」と対話：新しい専門家

**創造性（クリエイティビティ）は
個人の中にあるのではなく、
関係性の中にある**

他者と協動的でない、創造的にはなれない

(チクセント・ミハイ)

自分がつくった新しい自分と世界を
後から発見している
わくわくしている

だからもっとつくりたくなる

それは、人との共同作業

私がみんなと世界をつくり続けているように

みんなも私と一緒に世界をつくり続けている

**これが「学ぶ」ということ
「生きる」ということ**

自分と世界をつくる運動

11. 市場をつくるということ

ニーズは「関係」に発生する

**ものづくりは、
否応なく
ものをつくり、
人と交換し続けることで
社会をつくりつづける運動**

**商業は、モノを流通させることで
社会をつくりつづける運動**

12. 新しい時代の「学び」

「学び」の本質は

自分と世界を、人とともに

つくりだし、拡張し、豊かにすること

そのプロセスで自分に驚き

わくわくすること

つねに、未知をつくりだす

新たな関係へのきっかけ

対立を新たな関係へ

社会をつくりつづける

**自分を新しくし、他者を新しくし、
社会をつなげていく**

13. 行政の「学び」化と学びの専門職

新しい専門職

専門知の分配と指導・助言

↓

* 地域住民と共に生活し、
彼らの言葉にならない感情や思い、
日常生活上の課題、
希望を言語化し、可視化して、
住民に還し、「学び」を組織化できる人材

⇒ 「社会教育士(仮称)」
として称号化

地域学校協働推進員などに

新しい専門職

専門知の分配と指導・助言

↓

* 地域住民と共に生活し、
彼らの言葉にならない感情や思い、
日常生活上の課題、
希望を言語化し、可視化して、
住民に還し、「学び」を組織化できる人材

⇒ 「社会教育士(仮称)」
として称号化

地域学校協働推進員などに

行政の「学び」化を実現する専門職

**住民の「学び」を組織し、
住民の声にならない声を聞き取り、
対話として住民に還すとともに**

**行政課題を練り上げ、
課題解決へと導く専門職**

14. 「学び」がつくる新しい〈社会〉へ

長い箸の寓話

純粹贈与 信賴・信用の社会循環

「教育」と「学習」の概念の組み換え

教育：知識・教養を伝達

⇒ ともに考え、探求する

学習：知識・教養を蓄積

⇒ ともに作りだし、変化するプロセス

新しい教育観：アクティブ・ラーニング

⇒ 主体的で対話的な深い学び

⇒ 地域学校協働活動

**学校教育：画一的=拡大再生産
=一方向への線的発展=都市化
=国家単位=単能工=静的**

**生涯学習：多元的=持続可能性
=多方面への空間的展開=郷土化
=コミュニティ単位=多能工=動的**

楽しい〈社会〉

楽しさの自給自足

楽しさ=自分で〈社会〉をつくり、経営する
思いが実現する
人とつながっている
自分の居場所がある

仕事が生活
生活が文化

次の世代のために一肌脱ごう

15. 子どもに求められる学力

言葉の教育とともに

もっと、身体的なかかわりが必要

**社会に出ていって
社会をつくりだすこと**

言葉で論理的に話ができ、
異なる意見を受け入れ、
自分の意見も主張しながら、
常に、新しい価値をつくりだす

とともに

豊かな社会体験を持ち、
多様性に寛容で、
新たな価値をつくりだし続ける

言語と体験

確かな学力

健やかな身体

豊かな心

他者とともに
「生きる力」

**地域住民とくに子ども・若者が
コミュニティを
つくり、つながり、楽しむ**

想像し、創造し、経営する

**コーディネータとしての
専門職**

**高齢者も子どもも
地域のフルメンバーとして**

つくる つながる 暮らし楽しむ

The Socialとしての 〈社会〉の構想へ

「学び」の社会基盤
新しい市場社会
The Socialの基盤としての
住民と新たな専門職員

すべての人がフルメンバーとして
活躍できる社会へ

そのための基礎をつくる
地域学校協働活動